

動労組合員が革マル松崎へ怒りの手紙(5月20日付 動力車新聞)

『ノルマが厳しい』『精神的に苦痛』『無理強いがひどい』



87. 6. 4
No.2567

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五六(公衆)〇四七二二二七二〇七

全国の怒りを結集し、鉄道労連解体へ！

「新会社」移行後、二カ月も経たないうちに動労「本部」の中から組合員の悲鳴が噴き出ている。五月二〇日付「動力車新聞」に掲載された「一組合員からの手紙」には、当局の「無理強い」に対する怒り、それはとりもなおさず、革マル・松崎にだまされ、裏切られたことに対するうらみつらみが書き連ねてある。今こそ、革マル・松崎に対する国鉄労働者の怒りを結集し、鉄道労連を解体し、動労総連合の強化・拡大をかちとろう。

―悲鳴あふれる動労内部―

「一組合員からの手紙」は終始、当局の徹底した労務管理体制強化に対する悲鳴で満ちあふれている。

まず「目茶苦茶ともいえる経費節減、増収活動を押しつけられ、会社のためにかんばるという意気込みをも失望させる事態が相ついでいる」というのだ。

すなわち、経費削減は「社員食堂料金的大幅アップ」「乗務終了後に、風呂もほとんど入れない」「休憩室の滅灯で目も悪くさせる」、さらに増収対策では、「一人四五万円の割当」で「オレンジカード売りのノルマは一日一枚の三六五枚」となっており、「目標達成は不可能」

「ノルマが厳しい」「精神的に苦痛」と、当局の「無理強い」に、こんなはずではなかったと泣きごとをいっている。

―革マル松崎の屈服が原因―

また、組合活動については、「掲示板が最近制限を加えられ、掲出物が全部撤去される」「正当な組合活動も制限し、そのうち組合の存在も否定してくるのではないか」と言い、革マル・松崎から「会社のトップに御助言をお願いする」と申し述べている。

しかし、この間、労働組合の原則をふみにじり、労働者の首を平気で飛ばし、職場の権利をすべて当局に売りわたし、革マルのセクト的延命のために組合員を犠牲にし、権力・当局に身も心も売りわたし、今日の状態を創り出した者こそ誰

あろう、革マル・松崎そのものなのだ。

革マル松崎が、権力・当局に屈服すればするほどそのシワ寄せは組合員へと行き、不平・不満が噴き出してくるのだ。

―鉄道労連解体へ―

動労の組合員は、「雇用を守るため」「新会社に行くため」と、裏切りの先兵になることを強制されてきた。しかし、「新会社」に移行してみれば「希望に満ち、世間に胸が張れ、夢のある会社」ところか、労務政策だけが優先し、物も言えない職場と化していることにいま気づいたのだ。動労内部の矛盾は以前にもまして深まりつつあるのだ。

今こそ動労革マル・松崎支配を打倒する絶好のチャンスだ。
動労千葉―動労総連合の強化―拡大へ向け、「6・20集会」へ結集しよう。

水戸で動労から一 名が決起！で動労水戸 名が決起！で動労水戸 名が決起！で動労水戸

たたかう動労水戸に新たな組合員が加入した。
動労水戸は、組合員の七六％が不当配転されるといふ状況のなかで素晴らしい勇氣ある決起だ。

さつそく水戸では歓迎会が開かれ、新組合員A君は、「組合費が高くなった分ガンバルぞ！」と決意した。七月動労解散へ向けて全国で流動化が始まっている。動労総連合拡大へガンパロウ！